

平成 28 年 9 月 9 日

公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下 勝之
先天異常部会 常務理事 平原 史樹

妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意

厚生労働省からのお知らせ^①や報道でも見られるように、千葉幕張メッセでのイベント、関西国際空港などを起点として、麻疹（はしか）患者の発生報告が相次いでいます。今年は特にアジアの国々（インドネシア、モンゴル、中国等）に渡航歴のある患者の届出報告が目立っていることが国立感染研究所からも報告^②されています。

そこで、本会では、妊娠している方ならびにご家族等の皆様に次のとおり注意点についてお伝えいたします。

1. いま、麻疹（はしか）が**大人の間で流行**しています。
麻疹（はしか）に罹患したことのない方、免疫抗体の不足している方（予防接種を2回していない方なども含み、26歳以上の年齢層の男女が多く含まれます）、また、海外の流行地、とくに**アジアの国々（インドネシア、モンゴル、中国等）**の滞在者・旅行者などから麻疹（はしか）の発生がみられています。
現在、国内で一部の地域、施設利用者からの集団発生が報告されていますので、**感染者が多く発生したところへのお出かけは極力避けることを強くお勧めします。**
2. **妊娠中に麻疹（はしか）に罹患**すると、一般に重症化することが知られており、3－4割の方が流・死産、早産するとの報告があります。また、胎児奇形を起こすことはないとされていますが、胎児の発育異常、羊水量の異常、新生児麻疹（分娩時罹患）などをきたすおそれがあるとされています。
3. 麻疹ワクチン（通常は麻疹－風疹対応のMRワクチンが使われます）は、妊娠中には接種できませんが、これから妊娠を計画されている方や周囲の方（特に26歳以上の方）は、積極的に接種を受けられることを考慮してください。なお、地域によってはMRワクチンの補助が実施されている自治体もありますので、地元の保健所等にお聞きになることをお勧めします。
4. 麻疹（はしか）は**約10－12日間の潜伏期間の後**、初期症状が発熱、咳、咽頭痛、鼻水、眼球結膜の充血、目やに等のカタル症状から発症します。これらの症状が数日続いたあと、一旦下がるかのように見えた発熱が一気に高熱となり、発疹が出始め

ます。感染力は**症状（発熱、カタル症状）出現の前日から解熱後 3 日を経過するまで続き、極めて強い感染力を示します。**

5. 麻疹（はしか）は**空気感染**します。

感染者と同じ空間、場所にいるだけで強い伝染力をもって感染し、高率に感染伝播します。また、感染防御にはマスクは役に立たないとされています。

6. 受診について；

4. のような症状を伴う場合、特に約 10～12 日前の行動を思い出し、海外や人が多く集まる場所に行った等がある場合は、麻疹（はしか）も疑って、**必ず事前に医療機関に電話連絡**してから受診先、時間等の指示を受けたのち受診するようにしてください。

なお、普段健康な妊婦さんで、「麻疹の抗体が陽性で十分に抗体価がある」、あるいは「麻疹、MR ワクチンの予防接種を 2 回以上受けられた方」は、今回の妊娠中に新たに麻疹にかかることはないと考えられますので、本ホームページでの注意勧告の対象にはならないものと判断されて結構です。

不安な方はかかりつけの産婦人科医にご相談されることをお勧めします。

また、最新情報は下記の参考ウェブで更新されておりますのでご参照ください。

■参考ウェブ

- ① 麻しんの広域的発生について（厚生労働省）事務連絡 平成 28 年 8 月 24 日：
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000134554.pdf>
- ② 2016 年感染症発生動向調査への麻しん報告例（国立感染症研究所）
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/6713-20160826.html>
- ③ 麻疹 最新情報等（国立感染症研究所）
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>
- ④ 麻疹 Q&A（国立感染症研究所）
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/qanda.html>